

品川区における小中一貫校の一連の施設整備について(1)
- 教育システムと計画条件 -正会員別 八木 真爾 1*
正会員別 長井 厚 2*小中一貫校 品川区 オープンスペース
日野学園 伊藤学園 品川学園

1. はじめに

近年、小学校、中学校の教育課程の連続性や連携を意図する小中一貫教育に取り組む自治体が増えている。施設面においても改築に際して、小学校校舎と中学校校舎を一体的に整備（施設一体型校舎）した実現例も増え、紹介する文献も見られるようになった。例えば、「小中一貫教育の特色を活かした学校づくり」¹⁾では、26 市区町村へのアンケート結果、12 施設の運営・計画概要、ならびに 10 施設の分析による計画プロセス、空間構成の傾向、利用状況についての考察が示されている。現時点で最もまとまった資料と思われる。

建築計画における研究報告としては、筆者が知る範囲では、小中一貫校を直接的な主題とした研究では、金子らによる学習生活活動に着目した考察²⁾、筆者による品川学園における計画提案の報告³⁾に限られる。

本稿および次稿では、小中一貫校の施設整備の参考資料の一つとして、品川区で進められている小中一貫校 6 校の施設整備の展開について、教育委員会担当者^{注 1)}へのヒアリングをもとに筆者が理解した内容を紹介する^{注 2)}。

品川区は教育改革の方法の一つとして小中一貫教育に取り組み、施設一体型校舎を 2006 年からこれまでに 5 校整備し、6 校目が 2011 年度に着工予定である。施設設置者が認識してきた整備課題や取り組んできた試みの変遷を知ることが、計画・設計方法を検討する上で参考になるとが少なくないと考えられる。なお、筆者は、5 校目となる品川学園の設計を担当している。

本稿は、3 章で構成されている。1 章では、本稿の目的を述べ、2 章では、品川区の小中一貫校の特徴について、導入に至る経緯も含め述べる。3 章では、品川区の小中一貫校の特徴と整備までの経緯、および 6 校に共通する当初のからの計画条件について述べる。

2. 品川区の小中一貫校の特徴

2.1 品川区の小中一貫教育の概要

品川区の小中一貫教育については、一貫教育導入に至る背景、目的からカリキュラムに至まで「品川区小中一貫教育要領」⁴⁾に詳しく述べられている。カリキュラムの構成は、1～4 学年、5～7 学年、8～9 学年のまとめ

りて編成する「4・3・2 システム」とし、4 学年までを学級担任制、5 学年以降を教科担任制としている。また、施設も一体的に整備するとしている。なお、全ての学校を小中一貫校とする計画ではない。区内の 6 校区に 1 校ずつ整備する方針で開始している。また、同校区内には単独校もある。選択できることが行政サービスの責任と考えているとのことである。

2.2 導入の経緯

2000 年から教育改革の動きと、老朽化対策から始まった施設改築の動きが併行し進んでいた。この 2 つの動きがやがて連携し、小中一貫校に対応可能な敷地確保が実現したことから、整備が具体化し、その後の展開へ繋がっていった。ヒアリングで示された経緯について、運営面と施設面に分けて述べる。

(1) 教育改革における動き

- ・ 2000 年から教育改革の検討がはじまり、成果は品川区教育改革「プラン 21」⁵⁾にまとめられている。ここで、小中連携についても検討されている。
- ・ 併行して検討が進んでいた「校舎改築計画指針」⁶⁾において小中一貫校施設についても示されたが、この時点で具体的計画があったわけではなかった。
- ・ 小中一貫校施設の検討委員会が設置され、施設の検討が始まった。ただし、報告書等は確認できていない。
- ・ 運営面では、小中一貫教育のカリキュラムの検討に着手したが、検討の過程で、小中一貫教育は施設としての小中一貫校に限るものではないのではないということになり、単独校も対象とする「小中一貫教育要領」の作成に至った。
- ・ 改築を予定していた第二日野小学校の隣地が買収可能となり、校地として 10,000 m²確保^{注 2)}できたことから、最初の小中一貫校が具体化した（現日野学園）。
- ・ 小中一貫校整備は一連の改築計画の一つであり、単独校の改築整備も併行して進めている。小中一貫校 6 校を整備する期間に単独校 8 校を整備している。

(2) 施設改築における動き

- ・ 老朽化対策から区内校舎の改築の検討が始まる。
- ・ 耐震改修が急務の課題となる。
- ・ Is 値 0.6 で他区に先駆けて全校の耐震改修を終了する。

- ・その後、文部科学省が Is 値 0.7 としたため、23 区内で最も改修が遅れているとの指摘を受けることとなる。
- ・汚名返上に向けた改築検討が始まり、近接校の統合、改築の一つとして小中一貫校整備の検討も具体化する。
- ・併行して進んでいた教育改革（プラン 2 1）とも連携し、小中一貫校は各校区に 1 校整備することになる。
- ・改築は、単独校も併行して進めている。区民が一貫校、単独校を選べるのが行政サービスとして大事である。

3. 施設整備の展開

3.1 整備開始時の計画検討と条件

設計プロポーザル時に「学校改築計画指針」を示した他は、設計者の提案を期待することとなったが、次に述べる計画条件を実現可能な提案を採用し、基本設計、実施設計、監理の過程で教育委員会の担当間で議論を重ねながら具体化していった。

- ・「4・3・2 システム」でのまとめ、独立性と交流性を共に備えた校舎としたい。
- ・今後、起こり得る様々な学習形態（例えば、オープン形式、教科教室型）に対応できるようオープンスペースも含めフレキシブルな校舎としたい。なお、品川区でオープン形式を最初に採用したのは、一連の改築で最初となる台場小学校である。
- ・オープンスペースの利用としては、グループ学習、教師コーナー、ホームベース、展示などを想定した。結果的には学年集会にも対応可能なスペースとなった。
- ・職員室は、小学校、中学校で一つとする。
- ・校長も一人にする。
- ・休み時間も児童・生徒に目が届くように学年教師コーナーを設ける。
- ・特別教室準備室は廊下から中が見える計画とする。
- ・全児童・生徒が集まれる規模の体育館を設ける。

3.2 施設整備展開の概要

品川区澤井係長は既存施設を改修利用した 1 校を除き、大きく 3 つの段階を経た展開となったとしている。

(1) 第 1 段階

導入期と言える時期である。設計プロポーザル時に「学校改築計画指針」を示した他は、設計者の提案を期待した。幅の広い中廊下式オープンスペースのある構成となった。日野学園(2006 年竣工)、伊藤学園(2007 年竣工)の 2 校である。日野学園で採用された低学年の昇降口を教室毎に設ける提案は、その後の校舎にも継続採用されている。

(2) 既存利用

既存隣接 2 校の一体化改修による整備であり、他の 5 校の展開とは異なる位置づけとなる。八潮学園(2008 年竣工)の 1 校である。

(3) 第 2 段階

実践期と言える時期である。学年毎に特徴ある教室づくりと連携するオープンスペースづくりが意図された。片廊下式オープンスペースといえる空間構成である。荏原平塚学園(2010 年竣工)、品川学園(2011 年竣工)の 2 校である。荏原平塚学園で採用された低学年教室を広くする提案は、その後の品川学園にも採用されている。

(4) 第 3 段階

展開期とえる時期である。小中一貫校としての空間構成の考え方は第 2 段階を引き継いでいるが、将来の地域施設化を踏まえて複合された用途の関係からの展開が見られる。豊葉の森学園(2013 年竣工予定)の 1 校。

謝辞

ご多忙のなか、長時間にわたり、貴重なお話をいただいた品川区教育委員会和氣課長、澤井係長に感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 小中一貫教育の特色を活かした学校づくり - 施設一体型校舎の計画・設計の留意点 -, 国立教育政策研究所文教施設研究センター, 2009. 1
- 2) 金子光亮, 倉斗綾子, 上野淳: 学校運営と学習・生活活動の実態からみた小中一貫校の建築計画的考察, 日本建築学会技術報告集, No. 27, pp. 235 -240, 2008. 6
- 3) 長井厚, 八木真爾, 上野淳: 品川区立品川地区小中一貫校の計画プロセスと基本設計提案, 日本建築学会技術報告集 No. 3, pp. 285 -290, 2010. 2
- 4) 品川区教育委員会, 品川区小中一貫教育要領, 講談社, 2005. 8
- 5) <http://www.city.shinagawa.tokyo.jp/hp/menu000006200/hpg000006152.htm> (2011. 2. 28)
- 6) 品川区教育委員会学校改築検討委員会: 校舎改築計画指針, 2002. 5

注

- 注 1) 品川区教育委員会学務課長兼小中一貫校担当課長和氣正典氏、同教育委員会庶務課校舎改築調整担当係長澤井俊二氏である。両名とも、1 校目の日野学園から 6 校目の豊葉の森学園の施設計画を担当されている。ヒアリングは、個別に依頼し、異なる日に、同じ内容の質問により実施している。両者の説明に担当の違いによると思われる視点や表現に差異は見られたが、内容について食い違いは見られなかった。
- 注 2) 本稿は、2011 年 3 月 7 日に開催された日本建築学会教育施設小委員会公開研究会での発表原稿をもとに加筆修正して作成したものである。

* 佐藤総合計画 博士(工学)

** 佐藤総合計画 修士(工学)

* AXS Satow inc., Dr.eng.

** AXS Satow inc., M.eng.